「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト事業

令和２年度　「高知の授業づくり講座」（国語）

発行　令和２年 12 月
東部教育事務所

「授業づくり講座」では，学習指導要領が目指す授業づくりを推し進めるとともに，日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い，自ら学び続け，共に高め合う教員の育成を目指し研究を進めています。

中学校国語科の拠点校である安芸市立安芸中学校では，「生徒自らが探究したくなる（主体的に取り組める）課題設定」，「根拠を示して『書く』力を付ける」，「聴き合い学び合うことで，対話的で深い学びにいざなう」の３点を授業づくりで大切にしたい視点としています。そのため，国語科でも〔書くこと〕を中心に研究を進めてきました。

１学期は，第３学年〔書くこと〕エを重点指導事項にした単元構想に取り組み,6月 22 日，7月 13 日に校内で研修会を行いました。２学期は,多くの先生方に参加していただき，9月 28 日に教材研究会を，11 月 13 日に授業研究会を行いました。授業研究会では，東京女子体育大学教授　田中　洋一先生に指導・助言をしていただき，授業づくりの際のポイントについてご教示賜りました。この紙面では，9月 28 日，11 月 13 日の研究会について報告します。

提案授業

重点指導事項：第１学年〔書くこと〕ウ
単　元　名：安芸中学校の「魅力満載ガイドブック」を作成しよう　～根拠を明確にして安芸中学校の魅力を伝える文章を書く～
言 語 活 動：小学校６年生に安芸中学校の魅力を伝える文章を書こう　　言語活動例Ｂ（２）ア
～伝えたいことが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめたり検討したりして、根拠が明確になるように工夫しながら、安芸中学校の魅力を伝える文章を書く。～
提　　案：目的や意図に応じた言語活動と〔書くこと〕における学習過程における学びを有機的につなぐ単元構想

学習過程での学び

題材の設定，情報の収集，内容の検討
- 伝えたいこと（魅力）とその根拠（安芸中学校に関する情報）を関連付け、考えと根拠の関係を捉えたり整理したりする。

構成の検討
- 伝えたいことと根拠を文章のどこに位置付けるかなど文章の構成や展開を考える。

考えの形成，記述〔本時〕
- 伝えたいことが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめ、根拠を明確にしながら、伝えたいことが伝わるよう文章の書き方を工夫する。

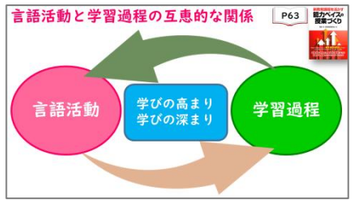
推敲
- 伝えたいことを伝えるための根拠などが十分に書き表せているかどうかを検討して文章を整える。

共有
- 根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章の良い点や改善点を見いだす。

言語活動　安芸中学校の魅力を伝える文章を書く。

単元末イメージ

言語活動と学習過程をつなぐことで資質・能力を育成する単元づくり

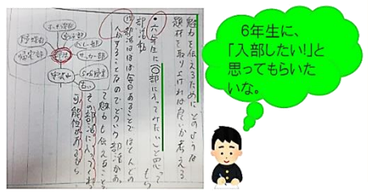


資質・能力を育成するためには，生徒が「言葉による見方・考え方」を働かせながら思考・判断・表現できる言語活動を設定することが大切です。単元を構想する際には，学習指導要領の目標や内容を理解したうえで，生徒の学習の実態や前単元までの学習状況，興味・関心等を踏まえ，教科書教材を有効に活用することが大切です。言語活動と学習過程を有機的につなぎ，言語活動を通して資質・能力を育成することができる単元を構想する力が求められています。資質・能力を育成するのに適した言語活動を設定し，学習過程のつながりを意識した単元を構想することで，各学習過程や単元における生徒の学びは深まり，言語活動の質も高まります。

安芸中学校の提案授業は，「安芸中学校に入学する生徒の人数が減少してきている」という学校の現状から題材を設定し，文章を書く目的や意図を生徒自身に常に意識させ，どのような事実や事柄を挙げて書けば，「安芸中学校の魅力」がより伝わる文章になるかについて，各学習過程を行きつ戻りつしながら，単元末まで生徒に思考させることを目指した授業でした。

目的や意図

何のために	誰に対して	どのような意図をもって・・・
安芸中学校の魅力を伝える	体験入学で来校する小学校六年生に	・安芸中学校に入学したいな ・中学校って楽しそうだな ・中学校生活が楽しみだな ・〇〇にチャレンジしてみたいな ・早く入学したいな ・ちょっぴり不安だったけど不安が解消されたよ ・知りたかったことを知ることができたよ



9月 28 日　教材研究会　協議より

協議の視点　『単元の流れについて』

本単元で目指す資質・能力を育成するために，各学習過程において生徒に付けさせるべき力とそのために働かせる「言葉による見方・考え方」について

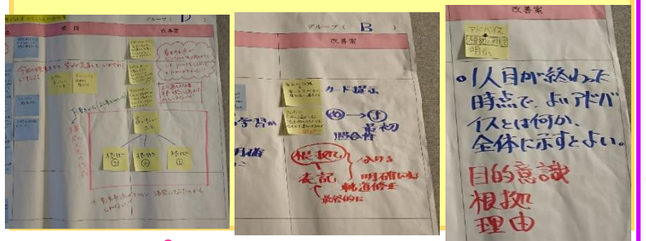
- 単元ゴールを「伝えたいことが確かな事実に基づいたものであるかを確かめ，魅力を伝える」というように重点指導事項を達成した姿に絞ってはどうか。
- 題材の設定，情報の収集，内容の検討の学習過程では，個々の生徒が学校の魅力を伝えるためにはどのような事例を挙げるとよいのかを検討し，何を魅力として伝えるのかを明確にしておく必要がある。学校の魅力を伝えるという学習課題では，生徒が挙げる事例が限られるのではないか。

11 月 13 日　授業研究会　協議より

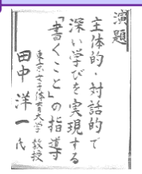
協議の視点

本時で育成する資質・能力が身に付いたか。
資質・能力を育成するために適切な手立てがなされていたか。

- 本時までの学習過程での学びが生かされていた。
- 具体的なアドバイスを生徒の言葉で伝え合うことができていた。
- 構成や表現の仕方等についての検討になってしまっているグループが多かった。生徒が文章を検討し合う際に，それぞれの文章のどこに根拠となる内容が書かれてあるのかの確認があれば重点指導事項に沿った検討ができたのではないか。



田中先生　講話　指導・助言



「書くこと」の指導について

- 表現意欲を喚起させるためには，目的意識，必要感，動機等が大切。読み手の現状も考え，「聞いて（読んで）もらいたい」「教えてあげたい」というような意欲が沸く設定が必要。→相手意識をもっと掘り下げるとよい。
- 文種・書式などの特徴を生かした指導を。→根拠（事実）が必要な文章ならば意見文や説明文等を書かせる。魅力を伝える文章ならば，「根拠を挙げて」ではなく「事例を挙げて」の方がそぐう。

Point１　子供たちに達成感や成就感をもたせる。
Point２　文章力は総合的な力であるが，作文指導はパーツで行い，その日の重点事項だけを意識させる。

★授業に主体的に関わらせる，子供自身が工夫したり思考したりする過程，考えさせ，工夫させるしかけがある授業づくりを！

参加者の声

- 文章を書く目的や意図を明確にして，「書く」ことを楽しみ，力を付けていく方法を学んだ。
- 主体的な学習とは，子供自身が工夫したり考えたりする学習のことであり，子供たちが工夫することができるような手立てをとりながら，単元ゴールを見据えた授業づくりに取り組んでいくことだと思った。
- 単元の流れの中で，ゴールに向かう過程のどの時間にどんなカを付けるのか，学習過程における指導と評価を明確にし，既習を想起させながら力を付けさせることの必要性を学んだ。